

ウイルス・幹細胞システム 医生物学共同研究拠点 ニュースレター

目次

1. 所長挨拶
2. 拠点長挨拶
3. これまでの活動
4. 今後の活動
5. お知らせ

1. 所長挨拶

医生物学研究所は、ウイルス・再生医科学研究所が改称することにより、2022年4月に発足しました。ウイルス再生研は、2016年10月にウイルス研究所と再生医科学研究所が統合して発足しましたので、統合後5年半で改称したことになります。ウイルス研はウイルス学のみならず分子生物学全体を、再生研は再生医学のみならず免疫学や生体工学を含めた広い領域を牽引してきました。今後のさらなる発展に向けて、時代の流れの先を読み、それに応じた組織の再構築や人事を進める必要があります。そのために、統合に際してウイルス学と再生医学の部門に加えて「生命システム研究部門」を新設し、人事を進めてきました。今回の改称による新名称には、「生物学としての視点を大事にしよう」という思いが込められています。

さて、ここからは研究所の「拠点」としての機能について述べます。再生研とウイルス研は、それぞれ再生医療とウイルス感染症研究の拠点として、国内外の研究者に機器、施設、研究法などを提供する機能を果たしてきました。統合後の研究所は、しばらくは「1研究所2拠点」という形態で、この2つの拠点機能を維持してきました。このたび、改称と同期して、両拠点を発展的に統合し、「ウイルス・幹細胞システム医生物学共同研究拠点」という新拠点を発足させました。研究所の改称は簡潔にした一方で、拠点名については役割を盛り込み、長くなりました。これまでの拠点機能は維持しつつ、新しい医生物学という分野を創造しようという思いが込められています。

なお、この拠点の中核となる事業として、当研究所の所員との共同研究を100万円を上限として支援する仕組みを発足しました。2022年度は公募の結果として30件を採択しました。

今回の改称に関連しては、この新拠点の発足が、改称に伴って開設した新規の中核事業ということになります。この新拠点の名の下に、所員一同で、時代を先導するという使命感の下に、生命科学の新たな地平を切り拓いていく所存です。



医生物学研究所 所長 河本宏

2. 拠点長挨拶

2022年度より新たに発足した「ウイルス・幹細胞システム医生物学共同研究拠点」は、その前身である「ウイルス感染症・生命科学先端融合的共同拠点」と「再生医学・再生医療の先端融合的共同研究拠点」の発展的統合にとどまることなく、それらを包括したわが国の生命医科学研究の潮流となるべく、マルチスケールでの医生物学の創出と次世代研究者の育成を目標としています。リニューアルした共同研究拠点は、研究所附属の「感染症モデル研究センター」、「再生実験動物施設」、「ヒトES細胞研究センター」、そして共通機器であるクライオ透過型電子顕微鏡など、わが国でも屈指のユニークな研究施設と設備を有するとともに、これまで長年にわたり蓄積してきた知見と技術、そして人材を武器として、最先端の異分野融合研究を推進していきます。2022年度に採択された課題は、いずれも新たな医生物学の創出を期待できる新拠点のスタートにふさわしい共同研究です。医生物学研究所のHPでは、採択課題の紹介をポンチ絵とともに掲載しています([リンク](#))。是非ともご覧になってください。今後は、研究所内研究支援室に設置された「共同研究拠点推進ユニット」を中心に、拠点活動の成果である研究業績やプレスリリースをはじめ、参加研究者の研究内容などの情報発信をHPやニュースレターを活用して積極的に行ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

ウイルス・幹細胞システム医生物学共同研究拠点 拠点長 朝長啓造

3. これまでの活動

拠点のページをリニューアルしました

今年4月の研究所名称変更にあわせて、ホームページをリニューアルした際に、本拠点のページも内容を充実させました。各研究課題の内容を分かりやすく伝えるため、代表者の顔写真やポンチ絵と一緒に、研究概要を掲載しております。年度末にお忙しいところデータの作成、ご送付いただき誠にありがとうございました。下記のリンクから、研究課題名をクリックするとご覧いただけます。

リンク先: <https://www.infront.kyoto-u.ac.jp/kyoten/01-list/>

医生物学研究所 第16回公開講演会が開催されました

2022年7月9日(土)、京都大学医生物学研究所 第16回公開講演会が開催されました。4月に研究所が改称し、医生物学研究所として記念すべき初めての公開講演会ということで、「医生物学研究所の船出」をテーマに若手教授の伊藤貴浩教授・望月敦史教授が登場いたしました。高校生からベテラン研究者まで幅広い方々にご参加いただき、活発な議論が行われました。

リンク先: <https://www.infront.kyoto-u.ac.jp/news/news-2894/>

医生物学研究所公式 YouTube チャンネルが開設されました

8月1日より、医生物学研究所公式 YouTube チャンネル「**医生研チャンネル**」「**裏医生研チャンネル**」の配信を開始いたしました。「**医生研チャンネル**」では研究内容や施設に関する紹介を、「**裏医生研チャンネル**」では普段は見ることのできない研究所の裏側や進学を目指す方へ役立つ情報を配信し、研究所の魅力・ユニークさをお伝えします。ぜひご覧ください。

医生研チャンネル: <https://www.youtube.com/channel/UCQBisvT4JPt5rdgMWpSVSgq>

裏医生研チャンネル: https://www.youtube.com/channel/UC5xnXbn_YbRAfeu80D0KPBw



医生研チャンネル 第1回では、再生免疫学分野を取り上げました



裏医生研チャンネルでは、医生研のアナザーストーリーをご紹介します

4. 今後の活動

第 20 回あわじ感染と免疫国際フォーラムが開催されます

2022年9月7日(水)～9日(金)まで、第20回あわじ感染と免疫国際フォーラムがオンラインで開催されます。京都大学医生物学研究所は共同利用・共同研究拠点事業の一環として本フォーラムを他機関と共同で主催しています。

リンク先: <http://awaji-forum.com/2022>

5. お知らせ

謝辞記載のお願い

募集要項でもお願いしておりますが、本研究所の拠点事業による研究成果を論文等で、発表する際には、当該論文の謝辞の欄に、本研究所の共同研究による旨を下記のとおり付記していただきますようお願いいたします。

“This work was supported by the Cooperative Research Program (Joint Usage/Research Center program) of Institute for Life and Medical Sciences, Kyoto University.”

共同利用・共同研究拠点の中間評価および期末評価など文部科学省へ提出する報告書において、謝辞に記載がある論文のみが、共同利用・共同研究拠点活動の成果論文として認められるためです。大変お手数をおかけいたしますが、ご協力お願い申し上げます。

